

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	伝承遊びと発達	担当教員 (実務経験)	浦島葉子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭として幼稚園に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	伝承遊びが子どもの発達に必要であることを学ぶ。				
到達目標	保育や福祉の実践現場で様々な伝承遊びを生かすことができる実践的な力を身につける。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・理解・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・伝承遊びの理解	保育所、福祉の現場での取り組み		
	2	伝承遊び 実践①	コマ・けん玉・お手玉等		
	3	〃	〃		
	4	伝承遊び 実践②	わらべうた・おはじき・あやとり		
	5	〃	〃		
	6	伝承遊び 実践③	カルタ・福笑い・双六		
	7	〃	〃		
	8	伝承遊び 指導の実際①	指導案作成		
	9	伝承遊び 指導の実際②	学んだ技術を使って実際に子どもと遊ぶ		
	10	〃	〃		
	11	〃	実践の録画を見ることにより、振り返りを行い課題を見つける。		
	12	伝承遊び 指導の実際③	学んだ技術を使って実際に子どもと遊ぶ		
	13	〃	〃		
	14	〃	実践の録画を見ることにより、振り返りを行う。すべての実践の省察		
15	まとめ				

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもと絵本	担当教員 (実務経験)	平原 由衣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育園に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	・言語発達に基づくコミュニケーション力や創造性を育成する絵本文化の理解を深める。 ・手作りの絵本製作をおこなう。				
到達目標	こどもの年齢や発達に合った絵本の製作ができるようになる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	授業態度や製作に対する意欲や工夫、提出物、製作物による総合評価		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	80%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	・こどもたちに絵本の楽しさを伝えられるよう、種類や特徴、年齢ねらいに合った選び方等しっかりと学びましょう。 ・保育者として現場でも活用していけるような作品を製作しましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 絵とことばの豊かな世界を楽しむ	授業についての説明 こどもにとっての絵本とは		
	2	様々な手作り絵本に触れる①	いろいろな素材の手作り絵本に触れて楽しむ①		
	3	様々な手作り絵本に触れる②	いろいろな素材の手作り絵本に触れて楽しむ②		
	4	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本の企画・立案(幼児向け)		
	5	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作		
	6	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作		
	7	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作		
	8	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本制作		
	9	手作り絵本を楽しむ① 保育者の手作り絵本	絵本の発表と振り返り		
	10	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の企画・立案(乳児向け)		
	11	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の制作		
	12	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の制作		
	13	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	ミニ絵本の制作		
	14	手作り絵本を楽しむ② 保育者の手作り絵本	発表と振り返り		
15	まとめ	授業の振り返りとまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもと音楽		担当教員 (実務経験)	櫻井 かおる 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	選択必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	幼児にとって必要な音楽環境の一つとしての楽器演奏と歌唱の技術、その展開方法を学ぶ。				
到達目標	保育園などで使用可能な楽器の使用や適切な演奏ができる。合奏譜を理解し役割に応じた演奏ができる。行事や季節に合った曲の選択、指導ができる。				
テキスト・ 参考図書等	プリント配布				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	・器楽合奏演奏能力・指導案作成内容、提出状況		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	今後の授業について 様々な楽器を知る		
	2	器楽合奏①	分担、パート練習		
	3	器楽合奏②	全体合奏		
	4	さまざまなアンサンブル	ボディパーカッション、ボイスパーカッション		
	5	器楽合奏①	楽譜分析		
	6	器楽合奏②	全体合奏		
	7	器楽合奏③	パートを交代して演奏する		
	8	子どものうた①	季節のうたについて、こどものうたをうたう、曲による活動の可能性を探る		
	9	子どものうた②	活動立案、展開、グループディスカッション		
	10	合唱①	声をそろえて歌う(斉唱)		
	11	合唱②	合唱		
	12	器楽合奏①	子どもと行う器楽合奏について		
	13	器楽合奏②	各楽器の特性、リズムパターンの考察		
	14	器楽合奏③	立案、実施		
15	まとめ	振り返り・まとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもと身体表現	担当教員 (実務経験)	上山 七々子 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	幼児期における身体表現の役割と必要性を理解し、さまざまな方法と指導法を学び、実践する。				
到達目標	身体表現について興味関心を持ち、自ら進んで表現するとともに、こどもに対し、身体表現を指導し、実践することができる。				
テキスト・ 参考図書等	授業内で資料を配布します。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	<提出物> 提出期限・内容についての評価 <その他> 課題への積極性・創意工夫・チームワーク・実践授業の参加状況による総合評価		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項	実技を中心に行います。運動に適した動きやすい服装で授業に参加してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	幼児期における身体表現の意味		
	2	さまざまな表現あそび	マネっこあそびと表現		
	3	〃	音に合わせた表現		
	4	〃	道具を使った表現		
	5	〃	感情を表現する		
	6	〃	集団での表現方法		
	7	様々なダンス	こどものダンス		
	8	〃	こどものダンス(応用)		
	9	〃	幼児向けダンスの振り付け方法		
	10	テーマに合わせた創作	行事によるテーマ・選曲方法		
	11	〃	構成の考え方		
	12	〃	構成から振り付けへ		
	13	〃	振り付け構成		
	14	〃	発表		
15	まとめ	鑑賞・評価			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育制作	担当教員 (実務経験)	平原 由衣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育園に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	・こども心身の発達段階に合わせた玩具・遊具・遊びについての理解を深める。・保育の現場で実践できる製作を行い、展開方法や演じ方を身に付ける。				
到達目標	乳幼児の年齢別発達を理解し、心身共に成長を促す玩具・遊具などを製作できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	授業態度、作品制作に対する意欲・工夫、レポート・提出物による総合評価		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	70%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	・玩具、遊具、遊びについての理解を深め、乳幼児の発達を促す遊具を製作する。・身近な素材を使った手作り玩具などを製作し実践に役立てる。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 遊びの特性	授業の説明 乳幼児の遊びと手づくり遊具の必要性		
	2	手作り遊具1 手作り遊具の製作	企画・立案(ストーリー性のあるものを制作)		
	3	手作り遊具1 手作り遊具の製作	作品制作		
	4	手作り遊具1 手作り遊具の制作	作品制作		
	5	手作り遊具1 手作り遊具の制作	作品制作		
	6	手作り遊具1 手作り遊具の制作	作品制作		
	7	手作り遊具の発表	発表と振り返り		
	8	保育園でおこなわれている季節の制作	作品制作		
	9	保育園でおこなわれている季節の制作	作品制作		
	10	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	企画・立案(クイズなど参加型で楽しめるものを制作)		
	11	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	作品制作		
	12	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	作品制作		
	13	手作り遊具2 子ども達が参加できる保育教材の制作	作品制作		
	14	手作り遊具の発表	発表と振り返り		
15	振り返りとまとめ	授業のまとめ			

授業科目 (科目ID)	地域ボランティア論	担当教員 (実務経験)	長谷川 香 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	ボランティア活動に関する基本的知識、考え方、および活動が持つ社会的役割や社会貢献について学ぶ。				
到達目標	ボランティア活動の意義を理解した上で、社会、地域への貢献について考えを持ちボランティアに参加することができる。また、多様なボランティア活動の事例について知り、人や地域社会とのつながりについて、自分自身の考えを述べるができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	ボランティア活動への参加状況・報告レポート、提出物、グループワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	30%			
	小テスト	%			
	提出物	40%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	板書、プリント、必要時に視聴覚教材を使用します。ボランティア活動上の注意事項を守り、自己課題を意識してボランティア活動に参加してください。また、ディスカッションには積極的に参加してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方		
	2	ボランティア概論	ボランティア活動の基本		
	3	ボランティア活動の意義	ボランティア活動の実際①		
	4	ボランティア活動の意義	ボランティア活動の実際②		
	5	ボランティア活動の心得	ボランティア目標設定、活動計画書の作成、活動準備		
	6	ボランティア活動の実践①	ボランティア活動		
	7		ボランティア活動		
	8	ボランティア活動の実践②	ボランティア活動		
	9		ボランティア活動		
	10	ボランティア活動の実践③	ボランティア活動		
	11		ボランティア活動		
	12	ボランティア活動記録・振り返り	自己評価・報告書まとめ		
	13		ボランティア活動報告会準備		
	14	ボランティア活動の評価・反省	ボランティア活動報告会		
15	まとめ	振り返り、課題の整理			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	福祉保育の実践	担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	障がいをもつ児童との関わりを通し、保育士の役割や障がいの特性などについて学ぶ				
到達目標	障がいと発達について学び、援助の展開や、具体的な実践ができるようになる				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	グループワークの参加状況、実践への準備また実践での取り組み状況、提出物等を総合して評価します。		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	60%			
履修上の 留意事項	講義・板書・プリント・演習等、社会的養護で学んだことを基に、その実際についてより学びを深めます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	社会的養護とは	オリエンテーション		
	2	児童福祉施設との連携について	各種別施設との連携		
	3	障がい児との関わりの実践1	児童デイサービスでの実践		
	4	障がい児との関わりの実践1	児童デイサービスでの実践		
	5	障がい児との関わりの実践1	児童デイサービスでの実践		
	6	障がいの理解と自己課題	実践の振り返り・まとめ		
	7	障がい児の保育	実施計画の作成・手作りおもちゃ作成		
	8	障がい児の保育	実施計画の作成・手作りおもちゃ作成		
	9	障がい児との関わりの実践2	児童デイサービスでの実践		
	10	障がい児との関わりの実践2	児童デイサービスでの実践		
	11	障がい児との関わりの実践2	児童デイサービスでの実践		
	12	障がいと発達の理解	自己評価・報告書まとめ		
	13	障がいと発達の理解	発表準備		
	14	障がいと発達の理解	発表		
15	まとめ	振り返り			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもとレクリエーション		担当教員 (実務経験)	長江 孝 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	幼児教育・学校教育の中で、「心を元気にする」ためのレクリエーション支援に注目が集められています。本演習では、レクリエーション支援の基礎を学びます。				
到達目標	レクリエーション支援者として、良好なコミュニケーションづくりの理論に裏付けられた信頼関係を築く方法(ホスピタリティ)や動機づけの理論に裏付けられた「自主的、主体的に楽しむ力を高めるレクリエーション活動の展開方法」(アイスブレイキング)を実施できるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	楽しさを通じた心の元気づくり(レクリエーション支援の理論と方法)/日本レクリエーション協会/公益財団法人日本レクリエーション協会				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物の提出状況・小テスト・演習時の実技を総合的に評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	30%			
	提出物	30%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	テキスト・プリントを基に授業を展開します。体を動かすレクリエーション活動を中心に行いますので、動きやすい服装で参加してください。授業参加態度を重視しますので、楽しく積極的な参加を期待します。フラットファイルを用意してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容と評価について		
	2	レクリエーション概論	レクリエーションとは？		
	3	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ		
	4	レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ		
	5	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングモデル		
	6	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングモデル		
	7	レクリエーション支援の方法	良好な集団づくりの方法 アイスブレイキングモデル		
	8	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	9	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	10	レクリエーション支援の方法	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法		
	11	レクリエーション支援実習	プログラミングの立案		
	12	レクリエーション支援実習	プログラムの立案		
	13	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
	14	レクリエーション支援実習	レクリエーション支援の実施		
15	レクリエーション支援実習	まとめ			

2019年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)			担当教員 (実務経験)	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	
対象年次・学期			必修・選択区分	単位数	
授業形態			授業回数(1回90分)	時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%			
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育実習Ⅱ		担当教員 (実務経験)	平原由衣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育園に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	選択必修	単位数 2単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)		時間数 90時間
授業目的	子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。				
到達目標	現場での保育の計画・実践・観察・記録および自己評価について取り組む。保育士としての自己の課題を明確にする。				
テキスト・ 参考図書等	実習要項				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	実習先からの評価、訪問指導時の準備・態度・報告内容、提出物等をもとに総合的に評価する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項	詳細は実習要項に記載				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
		保育所の役割や機能の具体的展開	養護と教育が一体となって行われている保育		
		〃	保育所の社会的役割		
		〃	保育所の果たす責任とは		
		観察に基づく保育の理解	乳幼児の心身の状態や活動の観察		
		〃	保育士の乳児との関わりや援助方法		
		〃	乳幼児の生活の理解と適切な関わり		
		〃	保育士の幼児との関わりや援助方法		
		〃	保育所の生活の流れや展開の把握		
		子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育		
		〃	入所している子どもの保護者に対する子育て支援および地域の保護者等に対する子育て支援		
		〃	関係機関や地域社会との連携・協働		
		指導計画の作成・実践・観察・記録・評価	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解		
		〃	作製した指導計画に基づく保育の実践と評価		
	保育士の業務と職業倫理	多様な保育の展開と保育士の業務、職業倫理			
	自己課題の明確化	振り返り			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育実習指導Ⅱ		担当教員 (実務経験)	平原 由衣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育園に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	選択必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	・実習の意義を学び、学外での実習準備としての日誌の指導計画等を学ぶ。 ・保育実習Ⅱを踏まえたうえで、実習の総括や自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。				
到達目標	・事前指導で学んだことを生かし実習で実践できるようにする。 ・実習後の自己評価や振り返りをしっかり行い、より良い保育者となるための課題を整理、表現できる。				
テキスト・ 参考図書等	フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画/神永直美/萌文書林				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	授業態度・グループワークや作業に対する参加意欲、提出物等を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	60%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	板書、プリント、DVD等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない 貴重な事柄をたくさん学びます。身に付いていること、さらに高めなければならないことを整理して残り少ない期間を有効に過ごしましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の意義と目標・概要・心構え・実習目標の設定		
	2	保育所実習について	実習記録の意義、実習評価、巡回時などについて		
	3	保育所実習について	礼状の書き方、必要書類の記入・確認		
	4	保育所実習について	オリエンテーションについての注意事項		
	5	部分実習について	年齢別の部分実習の説明と体験[製作]		
	6	部分実習について	年齢別の部分実習の説明と体験[製作]		
	7	保育実習日誌について	日誌記入等についての指導		
	8	保育所実習へ向けた総括	実習生の心得・注意、実習ファイル、実習報告書等、関係書類の確認		
	9	まとめ①	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導・礼状の送付		
	10	〃	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導		
	11	〃	実習報告会(グループワーク)・反省会・個別指導		
	12	まとめ②	実習報告会(グループワーク)・個別指導		
	13	〃	実習報告会(グループワーク)・個別指導		
	14	〃	実習報告会(グループワーク)・個別指導		
15	実習の振り返りとまとめ	実習の振り返りとまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育実習Ⅲ		担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	選択必修	単位数 2単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)		時間数 90時間
授業目的	観察や子どもとの実際の関わりを通して子どもへの理解を深めるとともに、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に学ぶ				
到達目標	現場実習を通して、施設や保育士の役割、利用者の様子などについて理解を深める				
テキスト・ 参考図書等	実習要項				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	実習先からの評価、訪問指導時の準備・態度・報告内容、提出物等をもとに総合的に評価する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	70%			
履修上の 留意事項	詳細は実習要項に記載				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
		施設の役割と機能	施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり		
		施設における支援の実際	受容し、共感する態度		
		施設における支援の実際	個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解		
		〃	個人支援計画または指導案の作成と実践		
		〃	子ども(利用者)の家族への支援と対応		
		〃	各施設における多様な専門職との連携・協働		
		〃	地域社会との連携・協働		
		保育士の多様な業務と職業倫理	施設保育士の役割の理解		
		保育士としての自己課題の明確化	保育士としての倫理観と自己課題について		

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育実習指導Ⅲ	担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	選択必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	実習の意義を学び、学外での実習準備としての日誌の記録や指導計画等を学ぶ。 保育実習Ⅰを踏まえたうえで、実習の総括や自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。				
到達目標	・事前指導で学んだことを活かし実習で実践できる ・実習後の自己評価や振り返りをしっかり行い、より良い保育者となるための課題を整理、表現できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	調べ学習の取り組み状況、グループワーク参加状況、提出物等を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	60%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	板書、プリント、ビデオ等、実習は今までに学んだことを実際の保育の場で実践し、成果を確かめる機会です。厳しい実体験の中から学校では得られない貴重な事柄をたくさん学びます。身につけていること、さらに高めなければならないことを整理して残り少ない期間を有効に過ごしましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	実習の意義と目標・概要・心構え		
	2	福祉施設について	児童福祉施設について①		
	3	福祉施設について	児童福祉施設について②		
	4	利用者理解	障がいについて		
	5	福祉施設実習について	オリエンテーションについての注意事項		
	6	福祉施設実習について	実習先施設について		
	7	福祉施設実習について	実習目標について		
	8	福祉施設実習について	実習目標の設定について		
	9	実習記録について	実習ファイル等関係書類の確認・実習記録の意義		
	10	実習記録について	実習日誌の書き方		
	11	施設実習へ向けた総括	実習生の心得・注意、実習評価、実習報告書の記入、励ましの言葉		
	12	まとめ①	実習報告会・反省会・個別指導		
	13	まとめ②	実習報告会・反省会・個別指導		
	14	まとめ③	実習報告会・反省会・個別指導		
15	まとめ④	振り返り、まとめ			